



薬剤師業務の基本

[知識・態度] 第4版

薬局管理から服薬指導、リスクマネジメント、
薬学的管理、OTC医薬品、病棟業務、多職種連携まで

● 薬剤師をめざす人のために	安原真人
● 序	上村直樹
● 本書利用の手引	i
● 本書下巻 掲載項目一覧	ii
● 薬学教育モデル・コア・カリキュラムと本文の対応表	iv
● OSCE との対応表	xvii
● 執筆者一覧	xviii

第1章 薬剤師業務の変遷と今後の展望

1. 病院薬剤師	武田泰生	2
1. 病院薬剤師業務の変遷		2
1) 戦前から1970年代までの業務展開 / 2) 調剤業務中心から対人業務中心へ		
2. 病院薬剤師業務の現状と課題		5
病院薬剤師と地域医療		
3. これからの病院薬剤師		6
1) 超高齢社会における医療・介護提供体制 / 2) 資質向上と専門薬剤師制度 / 3) 次世代医療への貢献		
4. おわりに		9
2. 薬局薬剤師	上村直樹	10
1. 薬局薬剤師業務の変遷		10
2. これからの薬局薬剤師をとり巻く環境		11
3. これからの薬剤師に求められるもの		14
1) 知識・技能・態度 / 2) チーム医療		

第2章 薬剤師倫理と態度

小田真穂

1. なぜ「倫理と態度」が薬剤師に必要なか	16
1) 医療の担い手としての薬剤師の社会的使命と倫理的基盤 / 2) 医療倫理	
2. 患者・生活者を「理解する」とは何か	18
1) 傾聴 / 2) 観察 / 3) 対話	
3. 自分を律する医療人としての心構え	19
4. 法令遵守と倫理的ジレンマへの対応	20
5. 個人情報の取り扱いと信頼の構築	20
1) 守秘義務 / 2) 個人情報保護法	

6. 薬剤師の「責務」とは何か	21
7. 生と死をめぐる場面で薬剤師にできること	21
8. デジタル時代の倫理課題	22

第3章 薬剤師業務

1. 病院 崔 吉道 24

1. 病院内の活動範囲，立ち位置	24
2. 他職種との協働	25
3. チーム医療の推進	26
4. 入院患者の流れ	27
5. 病棟業務	28
1) 病棟薬剤業務 / 2) 薬剤管理指導業務	
6. 外来業務	29
7. 治験管理業務	31
8. セントラル業務	32
1) 調剤業務 / 2) 医薬品管理 / 3) DI 業務 / 4) TDM 業務	
9. さまざまなチーム医療	33
10. 病院の組織と院内委員会での役割	34
11. 医薬品安全管理	36

2. 薬局 山本晃之 38

1. 医薬分業	38
医薬分業のメリットとデメリット	
2. 薬局の役割	39
1) 薬局薬剤師業務 / 2) かかりつけ薬剤師・薬局	
3. 薬局の開設・構造設備	42
1) 保険薬局の開設申請 / 2) 薬局に備える帳簿類 / 3) 薬局の掲示物 / 4) 薬局の主な構造設備基準 /	
5) 待合室，一般用医薬品等の陳列 / 6) 処方箋受付・投薬カウンター / 7) 調剤室 / 8) 情報公開	
4. 薬局開設者	47
5. 管理薬剤師	47
6. 調剤録	48
7. 調剤報酬と保険請求	48
1) 医療保障制度 / 2) 保険処方箋 / 3) 選定療養 / 4) 電子処方箋 / 5) 保険調剤報酬	
8. 薬局の地域医療連携	53

第4章 服薬指導

1. 服薬指導 磯部紀子 56

1. 服薬指導	56
1) 服薬指導の目的 / 2) 服薬指導を行う上で大切なこと	
2. 服薬指導の流れ	57
1) 服薬指導を行うための準備① / 2) 服薬指導を行うための準備② / 3) 患者の呼び出し・挨拶， 服薬指導の実行	

3. 患者に伝える指導内容及び服薬に必要な情報提供	59
4. 服薬指導の手法	62
1) インタビュー技法 / 2) くわしく聞き取りしたい時の7項目 / 3) 確認 / 4) 問題点の概観：「他に何かありませんか？」 / 5) 患者とコミュニケーションを図る上で大切な要素 / 6) アクティブリスニング	
5. オンライン服薬指導	65
6. 継続的服薬指導＝服薬フォローアップ	65

2. 薬歴管理

磯部紀子 67

1. 薬歴とは	67
2. 薬歴管理の目的	67
1) 患者に適した良い医療を進めるため / 2) 薬学的管理及び指導の証拠として / 3) 調剤報酬請求の根拠として / 4) 薬局内の薬剤師同士や他職種医療関係者の情報共有ツールとして	
3. 薬歴の記載内容	68
1) 患者の基礎情報 / 2) 処方内容 / 3) 調剤内容 / 4) 患者情報ならびにこれらの情報等を踏まえた薬学的管理及び指導の要点 / 5) 今後の継続的な薬学的管理及び指導の留意点	
4. 薬歴の形式	70
5. 薬歴の記載方式	71
1) SOAP (Cp) 方式 / 2) 箇条書き / 3) テンプレート化	
6. 薬歴管理を行う際の注意点	73
7. 薬歴の保管管理	73
8. 薬歴参照によるプレアボイド	74
9. トレーシングレポート（服薬情報提供書）	75
1) トレーシングレポートで伝える内容 / 2) トレーシングレポートの書き方のポイント / 3) トレーシングレポートの利点	

3. お薬手帳

下野江之介 78

1. お薬手帳の起源と定義	78
2. お薬手帳の意義	78
3. お薬手帳とは	78
4. お薬手帳への記入の工夫	80
5. 薬剤師の心得	80
6. お薬手帳を携帯することの必要性	80

4. 患者への情報提供

寺澤雅治 81

1. 患者へ情報を提供することの重要性	81
1) なぜ患者への情報提供が重要なのか / 2) 薬剤師の役割：情報提供の専門家として	
2. 患者の状況に応じた情報提供	82
1) 新規に薬を服用する患者への情報提供 / 2) 継続して薬を服用する患者への情報提供 / 3) 患者の理解度に合った情報提供 / 4) わかりやすい言葉での情報提供：伝わる伝え方 / 5) 患者が必要としている情報は何か	
3. どのような情報を提供するのか	84
1) 処方された医薬品に関する情報提供 / 2) 薬剤情報提供書 / 3) RMP 患者向け資材 / 4) 重篤副作用疾患別対応マニュアル / 5) 患者向医薬品ガイド / 6) その他の情報提供ツール	

5. 注意を要する疾患，小児，妊婦・授乳婦，高齢者への服薬指導	高橋 寛	88
1. 注意を要する疾患について		88
2. 小児への服薬指導		88
1) 小児への服薬指導のポイント / 2) 小児への散剤の飲ませ方の工夫 / 3) 小児薬用量 / 4) その他の注意事項		
3. 妊婦や授乳婦への服薬指導		90
1) 妊婦や授乳婦への服薬指導のポイント / 2) 妊婦への薬剤投与の原則		
4. 高齢者への服薬指導		92
1) 高齢者の特徴 / 2) 高齢者への服薬指導のポイント		

第5章 医薬品管理

1. 医薬品管理の目的，意義	安野伸浩	95
1. 医薬品管理の流れ		95
2. 品質管理業務と在庫管理業務		95
2. 品質管理	安野伸浩	98
1. 医療現場における品質管理		98
1) 保存条件 / 2) 有効期限と使用期限 / 3) 包装と表示		
2. 院内製剤の品質管理		103
1) 院内製剤とは / 2) 院内製剤の品質管理		
3. 在庫管理	安野伸浩	104
1. 医療現場における在庫管理		104
1) 購入管理 / 2) 数量管理 / 3) 供給管理（在庫・供給） / 4) 消費管理と記帳 / 5) 医薬品の流通管理		
4. 法的管理が義務付けられている医薬品	花島邦彦，薄井健介	111
1. 規制医薬品とは		111
2. 劇薬		113
1) 劇薬とは / 2) 劇薬の管理・保管 / 3) 劇薬の調剤		
3. 毒薬		113
1) 毒薬とは / 2) 毒薬の管理・保管 / 3) 毒薬の調剤		
4. 麻薬		116
1) 麻薬とは / 2) 麻薬を取り扱うための免許 / 3) 麻薬の譲渡・譲受 / 4) 麻薬の保管 / 5) 帳簿への記録 / 6) 麻薬の調剤 / 7) 病棟における麻薬管理 / 8) 在宅医療における麻薬管理 / 9) 麻薬の廃棄 / 10) 事故届 / 11) 年間届		
5. 覚醒剤原料		125
1) 覚醒剤原料とは / 2) 覚醒剤原料の譲渡・譲受 / 3) 覚醒剤原料の保管 / 4) 帳簿への記録 / 5) 覚醒剤原料の調剤 / 6) 覚醒剤原料の廃棄 / 7) 事故届		
6. 向精神薬		128
1) 向精神薬とは / 2) 向精神薬の譲渡・譲受 / 3) 向精神薬の保管 / 4) 向精神薬の記録 / 5) 向精神薬の廃棄 / 6) 向精神薬の調剤		
7. その他：調剤時に処方医に関する確認を要する薬剤		130
8. 特定生物由来製品	薄井健介	133

第6章 医薬品情報管理

1. 医薬品情報管理の意義と目的

若林 進 137

2. 病院における医薬品情報管理—医療従事者向け情報を中心に

若林 進 139

1. 医薬品情報の収集 139
 - 1) 個々の医薬品に関する情報 / 2) 副作用等の情報源
2. 医療関係者からの Q & A (受動的情報提供) 142
 - 1) 医薬品識別に関する Q & A / 2) 医薬品から病名を考える Q & A / 3) 病名から医薬品を考える Q & A / 4) 配合変化・安定性に関する Q & A / 5) 副作用・相互作用に関する Q & A / 6) 院内製剤に関する Q & A / 7) 一般用医薬品に関する Q & A / 8) 医事、薬事に関する Q & A / 9) その他の Q & A
3. 医療関係者への情報発信 (能動的情報提供) 148
 - 1) 院内定期刊行物 (院内報) による情報提供 / 2) 院内医薬品集の作成 / 3) 院内ホームページ等による情報提供 / 4) 電子カルテシステム、オーダーリングシステムを利用した情報提供
4. 患者への情報提供 150
 - 1) 製薬会社が作成する患者向け医薬品情報 / 2) 施設内で作成する患者向け医薬品情報 / 3) その他の患者向け医薬品情報
5. 副作用報告制度 152
 - 1) 市販直後調査制度 / 2) 医薬品安全性情報報告書

3. 薬局における医薬品情報管理—患者向け情報を含む

下平秀夫 154

1. 薬局における医薬品情報業務の特徴 154
2. 薬局が利用する主な情報源 155
 - 1) 医薬品インタビューフォームの活用 / 2) SNS の活用 / 3) 冊子・電子ジャーナル / 4) 医薬品卸からの情報 / 5) 製薬企業からの情報
3. 薬局に備える主な書籍 156
4. 医薬品情報に関わる Web サイト 157
 - 1) Web で利用できる医薬品情報関連サイト / 2) 診療ガイドライン
5. 薬局が行う情報提供 161
 - 1) 患者への情報提供のポイント / 2) 医薬品情報活動報告書 (DI 報告書) / 3) トレーシングレポート (服薬情報提供書) / 4) DEM
6. セルフメディケーション情報 163
 - 1) 一般用医薬品の添付文書 / 2) 健康関連情報

第7章 リスクマネジメント

1. リスクマネジメントとは

田極淳一 166

1. リスクマネジメントとは 166
2. リスクマネジメントに対する取り組み 166
3. 調剤過誤とヒヤリ・ハット事例 167
4. オンライン資格確認や電子処方箋管理サービスを活用した安全管理 168
5. 有効性モニタリング、安全性モニタリング 168
 - 1) 有効性モニタリング / 2) 安全性モニタリング

2. ハイリスク薬管理	田極淳一	170
1. ハイリスク薬とは		170
2. ハイリスク薬の薬学的管理指導		170
1) 病院における管理指導 / 2) 薬局における管理指導 / 3) ハイリスク薬の薬剤服用歴管理指導の業務手順と方法		
3. 調剤過誤防止とインシデント対策	田極淳一	174
1. ハインリッヒの法則		174
2. インシデント報告（インシデントレポート）		175
3. 薬局ヒヤリ・ハット事例収集分析事業		176
4. 調剤時に注意すべき医薬品		176
1) 名称類似による薬剤の取り違い / 2) 外観が類似する医薬品 / 3) 規格や剤形が複数存在する医薬品例		
5. ヒューマンエラーとシステムエラー		180
1) 薬品棚の位置の工夫の例 / 2) 表示方法の工夫の例 / 3) その他の工夫の例		
6. 調剤の過程における具体的な調剤過誤防止例について		182
1) 処方箋の受付、保険証・マイナンバーカードの確認 / 2) 患者情報等の分析・評価 / 3) 処方内容の薬学的分析、調剤設計 / 4) 薬剤の調製・取り揃え / 5) 最終監査 / 6) 服薬指導 / 7) 調剤録・薬歴の作成 / 8) 薬剤使用期間中のフォローアップ		
4. 医療安全	丸山桂司	188
1. 薬局における安全管理体制（医療安全管理指針、同業務手順書）		188
2. 病院における安全管理体制		189
5. 感染制御	丸山桂司	190
1. 感染制御の基本		190
1) 標準予防策 / 2) 感染経路別予防策		
2. 院内感染（医療関連感染）対策		192
1) 感染制御の組織 / 2) 院内感染の情報伝達・活動 / 3) 感染制御チーム / 4) 抗菌薬適正使用支援チーム		
3. アウトブレイクの考え方と対応		194
第8章 病棟業務	永田将司	
1. 薬剤師の病棟業務の目的と病棟専任薬剤師の役割		195
2. 入院患者に対する薬学的管理の実際－POSの導入－		196
1) 基礎情報の収集 / 2) 問題リスト作成 / 3) 初期計画立案 / 4) 計画の実践及び経過記録作成 / 5) 監査 / 6) 退院時薬剤情報管理指導		
3. その他の病棟業務		205
1) 病棟医薬品管理 / 2) 処方支援事例等の情報共有 / 3) 医薬品安全性情報管理 / 4) 医療従事者への情報提供		

第9章 薬学的管理

1. 代表的な疾患（がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）	根岸健一，森 大輝	208
1. がん		210
2. 高血圧症		213
3. 糖尿病		215
4. 心疾患		218
5. 脳血管障害		219
6. 精神神経疾患		220
7. 免疫・アレルギー疾患		222
8. 感染症		224
9. 個別最適化		227
2. がん化学療法施行患者に対する薬学的管理（入院）	鈴木貴明	229
1. 処方箋の監査（化学療法レジメンの監査）		229
1) 用法・用量 / 2) 化学療法歴の有無 / 3) 前投薬の確認 / 4) 患者の併発疾患，既往歴の確認 / 5) 臨床検査値の確認		
2. 薬剤管理指導		231
1) 入院時 / 2) 化学療法前 / 3) 化学療法施行時，施行後 / 4) 退院時		
3. 外来化学療法における適切な薬学的管理	鈴木貴明	235
1. 外来化学療法について		235
2. 外来化学療法の流れ		235
1) 事前説明 / 2) 治療当日 / 3) 抗がん剤投与中・投与後 / 4) 投与終了後		
3. 外来化学療法に関する薬剤師の業務		236
4. がん化学療法における病院と薬局の薬剤師による連携		237
1) 改正薬機法と薬剤交付後のフォローアップ / 2) トレーシングレポートの活用		
4. 急性期医療（救急医療・集中治療等）における薬学的管理	宿谷光則，前田幹広	239
1. 救急医療・集中治療を提供する日本の体制		239
2. 救急医療・集中治療になぜ薬剤師が関与するべきなのか？		240
3. ERにおける薬剤師の業務とその意義		241
4. 集中治療室における薬剤師の業務とその意義		242
5. 周産期医療・小児医療の薬学的管理	三好文子	246
1. 周産期医療における薬学的管理		246
1) 妊娠可能な女性・妊婦に対する薬物療法の注意点 / 2) 合併妊娠について / 3) 授乳婦への薬物投与		
2. 小児医療における薬学的管理		252
1) 小児期の薬物動態 / 2) 小児の用法用量について / 3) 小児に特有の副作用		
6. 臨床検査値の活用	渡邊裕之	255
1. 臨床検査値と関連事項		255
2. 腎機能評価と薬物投与設計のポイント		257

3. 臨床事例に学ぶ臨床検査値の活用	257
4. 臨床検査値を活用した薬剤師業務の意義	260

7. 薬物投与プロトコールやクリニカルパスの利用 下村 齊 262

1. プロトコールに基づく薬物治療管理 (PBPM)	262
1) PBPM の病院内での運用の流れ / 2) PBPM の具体的実践事例	
2. クリニカルパスの活用	264
1) クリニカルパスとは / 2) クリニカルパスのメリット / 3) クリニカルパスの作成・運用の流れ /	
4) 薬剤師のクリニカルパスへの関わり	
3. 医療機関における標準的な薬剤選択の方針 (フォーミュラリ)	267
1) フォーミュラリとは / 2) フォーミュラリの目的・メリット / 3) フォーミュラリの導入・運用	

第10章 セルフメディケーションの支援

1. セルフメディケーションとは 吉田正樹 270

1. セルフメディケーションの推進	270
1) セルフメディケーションにおいて薬局が担う役割 / 2) 健康日本 21 (第三次) / 3) スマート・	
ライフ・プロジェクト	
2. 健康サポート薬局	273
3. 受診勧奨のサイン	274
4. 地域における薬局の役割と今後の期待	275

2. OTC 医薬品とは 鹿村恵明 277

1. 医薬品の分類	277
2. 要指導医薬品・一般用医薬品とは	277
1) 要指導医薬品の定義 / 2) 一般用医薬品の定義	
3. スイッチ OTC 医薬品とダイレクト OTC 医薬品	280
1) スイッチ OTC 医薬品とは / 2) ダイレクト OTC 医薬品とは	
4. 顧客 (来局者) 対応のシミュレーション	281
5. 要指導医薬品・一般用医薬品の販売形態	283
6. 要指導医薬品・一般用医薬品のリスク区分, 販売方法, 対応者	283
7. 情報提供, 陳列方法	284
1) 情報提供の場所 / 2) 販売制限 / 3) 販売前の事前確認, 販売者等の情報伝達, 販売記録 /	
4) 医薬品使用開始後の注意点の説明	
8. 薬局における掲示事項 (要指導医薬品・一般用医薬品関係)	290

3. 副作用防止 (OTC 医薬品) 吉田正樹 293

1. OTC 医薬品による副作用	293
2. 副作用の種類	294
1) 薬理作用による副作用 / 2) アレルギー反応による副作用 / 3) 重篤な副作用の初期症状	
3. OTC 医薬品の添付文書	295
添付文書の項目	
4. OTC 医薬品販売時に確認すること	296
1) 「してはいけないこと」 / 2) 「相談すること」 / 3) 薬物乱用 (オーバードーズ) 防止	

5. 副作用が起こった場合の対処について	298
1) 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度 / 2) 医薬品副作用被害救済制度	

4. 医薬部外品 吉田正樹 301

1. 医薬部外品とは	301
------------------	-----

5. 化粧品 瓜野松雄 303

1. 化粧品とは	303
2. 化粧品の効能・効果	303
3. 化粧品の役割	305

6. 機能性食品 関谷 秀 306

1. 機能性食品の概要と分類	306
2. 特定保健用食品（トクホ）	307
3. 栄養機能食品	308
4. 機能性表示食品	309
5. 医薬品との相互作用	310

7. 医療機器 関谷 秀 311

1. 医療機器の定義	311
2. 医療機器の分類	311
3. 販売・貸与に関する規制	311
4. 医療機器の管理	312

8. 毒物・劇物 関谷 秀 313

1. 毒物・劇物とは	313
2. 表示と貯蔵・陳列	313
3. 譲渡・譲受（販売）	314
1) 販売業の登録 / 2) 譲渡・譲受の記録 / 3) 販売の制限	
4. 廃棄	315
5. 事故発生時の対応	316

9. 口腔ケア 鹿村恵明 317

1. 口腔機能（歯や口腔の役割）	317
2. 口腔ケアの意義	317
3. う蝕（虫歯）予防	318
4. 唾液の役割	318
5. オーラルフレイル	319
6. 口腔ケアに対する薬局薬剤師の役割	319

10. 薬局製剤・漢方製剤 堀川壽代 321

1. 薬局製剤とは？	321
------------------	-----

2. 薬局製剤の歴史	323
1) 薬局製剤の起源：混合販売 / 2) 薬局売薬～公定処方 45 処方 / 3) 国民医薬品集収載品～日本薬局方第二部 / 4) 薬局製剤指針 / 5) 薬局製造販売医薬品／製造販売承認 / 6) 薬局医薬品 / 7) ネット販売への対応 / 8) 漢方製剤	
3. 関連法規・義務	324
1) 許可・承認 / 2) 義務 / 3) 医薬品副作用被害救済制度：薬局製剤による健康被害への対策	
4. 薬局製剤の要件	326
1) 質的要件（製法） / 2) 量的要件（規模）	
5. 薬局製剤の品質管理	326
6. 実際に薬局製剤を作成してみよう	326

第 11 章 薬剤師の社会貢献

1. 多職種連携

奥山 清 329

1. 多職種連携とは	329
2. 連携する職種	329
3. 薬物療法の変遷～連携の必要性～	331
4. 多職種連携の実際	331
1) 病院でのチーム医療 / 2) 通院患者の多職種連携 / 3) 災害医療の多職種連携	
5. 医師と薬剤師の連携～トレーシングレポート～	337
1) トレーシングレポートとは / 2) トレーシングレポートの様式 / 3) トレーシングレポートの提出方針	

2. 緊急災害時対応（BCP，災害支援事例）

水 八寿裕 340

1. 災害の定義	340
2. 緊急災害時対応	340
3. 災害救助法と災害処方箋	341
1) 急性疾患は災害処方箋にて対応 / 2) 慢性疾患は現地医療機関にて対応	
4. 能登半島地震での薬剤師の活動	342
5. 災害医療の変化と進化	342
6. 災害に対する備えと BCP 策定の重要性	343
7. BCP と防災マニュアルとの違い	344
8. BCP の未来予想図	344

3. 学校薬剤師

田口真穂 346

1. 学校薬剤師とは	346
2. 学校薬剤師の関連法規に基づく位置づけ	346
3. 学校薬剤師の職務	347
1) 学校保健計画及び学校安全計画の立案に参与 / 2) 学校環境衛生活動 / 3) 学校における薬品管理（毒物・劇物、医薬品等） / 4) 健康相談・保健指導 / 5) 執務記録簿の作成と提出	

4. ドーピング防止活動

田口真穂 355

1. ドーピングとは	355
2. ドーピング防止活動	355

3. アンチ・ドーピングに関する規則	356
4. 禁止物質及び禁止方法	357
5. 薬の使用及び治療使用特例	359
6. ドーピング防止における薬剤師の役割	359

索引	362
----------	-----

章末問題

2 章	23	8 章	207
3 章	55	9 章	269
4 章	94	10 章	328
5 章	136	11 章	361
6 章	165		
7 章	194	1 章は章末問題なし	

各章の最後のページに演習問題を掲載しています。CBT に準じた内容と形式になっており、各章の内容の整理と CBT 対策に役立ちます。

解答と解説は、問題の下にある QR コード*を読み込むことによってお手持ちの端末でご覧いただけます。

または、弊社ホームページの本書特典ページにも掲載しております。

(本書特典ページの閲覧方法は右ページの「本書利用の手引」をご参照ください)

* QR コードのご利用には「QR コードリーダー」が必要となります。お手数ですが、各端末に対応したアプリケーションをご用意ください。

* QR コードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。